

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association between pre-pregnancy weight status and dietary patterns during pregnancy: results from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠前の体格と妊娠中の食事パターンの関連

ユニットセンター(UC)等名:メディカルサポートセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名:Public Health Nutrition

年: 2023 DOI:10.1017/S1368980023000770

筆頭著者名:石塚 一枝

所属 UC 名:メディカルサポートセンター

目的:

妊娠前の体格は出生児の健康との関連がしてきされており、また妊娠中の食事にも影響する可能性がある。これまでの研究では、ほとんどが妊娠前の肥満に注目しており、やせの研究は少ない。本研究では、やせが多いとされる日本人の研究において、妊娠前の体格と妊娠中の食事パターンの関連を検討した。

方法:

エコチル調査に参加する妊婦 90,765 名を対象とした。妊娠中期または後期に食物摂取頻度調査票を用いて食事摂取状況を収集した。主成分分析で食事パターンを抽出し、食事パターンとBMI(高度または中程度のやせ、軽度のやせ、標準体重、過体重および肥満)との関連を検討した。

結果:

主成分分析から、3つの食事パターンが抽出された。妊娠前に標準体重にあった群と比較して、妊娠前に肥満であった群では、「果物と野菜」パターンおよび「菓子類」パターンの摂取が少なく、「白米・大豆製品」パターンを摂取する傾向がみられた。また、妊娠前 BMI が高度または中程度のやせに当てはまる群では妊娠中に「菓子類」パターンを摂取する傾向が高かった。

考察(研究の限界を含める):

本研究の限界として、食事評価は自己申告によるものであるため、誤申告があった可能性がある。過体重の女性は食事摂取量を過小に、逆にやせている女性は食事摂取量を過大に申告した可能性がある。そのため、食事パターンの違いを過小評価することになった可能性がある。また、妊娠前の BMI データは対象者からの報告に基づいたものであり、体重が過小または過大評価された可能性がある。しかし、自己申告による妊娠前の体重状態を分類することは有効であると報告されている。

結論:

妊娠前の体重が中高度または中程度のやせの妊婦と、肥満の妊婦は、妊娠前に標準体重であった妊婦と比較して、不健康な食事パターンを摂取する傾向がみられた。この結果より、妊娠中の食事指導は、妊娠前の体格に基づいて行う必要があることが示唆された。